

はせつるまえいせきぐん 長谷鶴前遺跡群 現地説明会資料

（一財）長野県文化振興事業団長野県埋蔵文化財センター

* 調査の成果その 2 *

大量に出土した焼き物は甕・すり鉢・
灯明具・油徳利などの日用品がほとんど
です。灯明具の蓋には、素焼のものと釉
薬がかかったものがありました。

このことから、2工程で製品が焼かれ
たことがわかりました。また、釉薬がか
かったものでも茶色の釉薬と青緑色の釉
薬があります。青緑色の釉薬はいわゆる”
松代焼”のものと非常に似ています。

窯で焼き物を焼く時には製品同士が
くっつかないよう、製品の間には窯道具を
挟み込みます。”円錐ピン”や”焼台”
とよばれる道具で、焼きあがった製品を
窯から出す時に取り除かれます。



灯明具の蓋（左：素焼・中央：鉄釉）
と土瓶の蓋（右）



匣鉢（さや・こうばち） 輪トチ 焼台

さまざまな窯道具

コラム～焼き物の歴史～

今から約 1.5 万年前に粘土をこねて器が作られ
るようになりました。土器の誕生です。縄文時代
の中頃になると火焰型土器などで知られるように
土器の装飾がピークに達します。その後、表面の
装飾はより洗練されていき、器の形もバリエー
ションが豊富になります。

古墳時代の中頃（5 世紀頃）には大陸から窯の
技術が伝わり、高温で器が焼けるようになります。
そこで生産されたのが須恵器で、轆轤も同じ時期
に伝わったと考えられます。その後、釉薬が施さ
れる陶器へと変化し、中世になると現在まで続く
備前焼・常滑焼・信楽焼などの著名な焼物が生産
を開始します。



『瀬戸市史』 陶磁史篇五』より抜粋
（職人工場の図『尾張瀬戸焼図会』）

長野県埋蔵文化財センター
〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田 963-4
TEL (026)293-5926
FAX (026)293-8157
E-mail info@naganomaijun.or.jp
インターネット（最新の情報はこちらから）
長野県埋蔵文化財センター
http://naganomaijun.or.jp/

* 遺跡の概要 *

長谷鶴前遺跡群は長野市の南、篠ノ井
の長谷地区から越地区に位置します。遺
跡範囲の南側に坂城更埴バイパスが通る
こととなり、事前に発掘調査を行って、
記録保存することが必要となりました。

調査地点は西側の山から下る傾斜地と、
蓮田と呼ばれている低湿地帯にまたがっ
ています。

坂城更埴バイパスに関わる発掘調査は
平成 25 年度から行われています。篠ノ
井塩崎地区の塩崎遺跡群（弥生時代～平
安時代）では竪穴建物跡や墓、集落を区
画する溝跡などを、石川条里遺跡（弥生
時代～中世）では弥生時代の小さな区画
の水田跡や、中世の礎石をもつ掘立柱建
物跡などを確認しています。



遺跡位置図（国土地理院発行5万分の1「長野」に加筆）
※●・★印は今年度調査地点です

* 調査の成果その 1 *

山際に近い調査区（3区）から、近代の焼き物や窯で使われていた道具（窯道具）
を大量に見つけました。様々な史料から、長谷地区には明治時代に操業していた窯
元が存在し、今回の発掘調査地点のすぐ近くにあったことが判明しました。「長谷焼」
といわれた焼き物を焼いた窯は、今から 150 年前の慶応 3（1867）年に操業を
開始し、明治 29（1896）年に廃業するまでの約 30 年間続いていたという記録
があります。（※）

今回の調査によって、窯そのものを確認することはできませんでしたが、轆轤に
使われた台石を発見したことなどから、窯に隣接していたとみられる工房の場所を
把握することができました。

※「旧塩崎村役場文書」より（唐木田又士編『松代焼史料集』所収）



① 廃業後の造成工事

当時工房で使用していた粘土や焼き損じ品などを廃棄（赤い範囲）して、土地を造成してたとみられます。明治29年に窯を廃業したあと、昭和のはじめには調査地点付近は宅地から畑地に転換されています。

※灰色の部分は石が集中していたり石が組まれているところです。※図中の①～④は写真の位置です。



③ 低地へと向かう暗渠

「暗渠」とは地下に埋設する排水路です。山際から低地へと延び、ていねいに作り込まれていました。一部にレンガを使っているため、幕末以降に作られたものであることがわかりました。



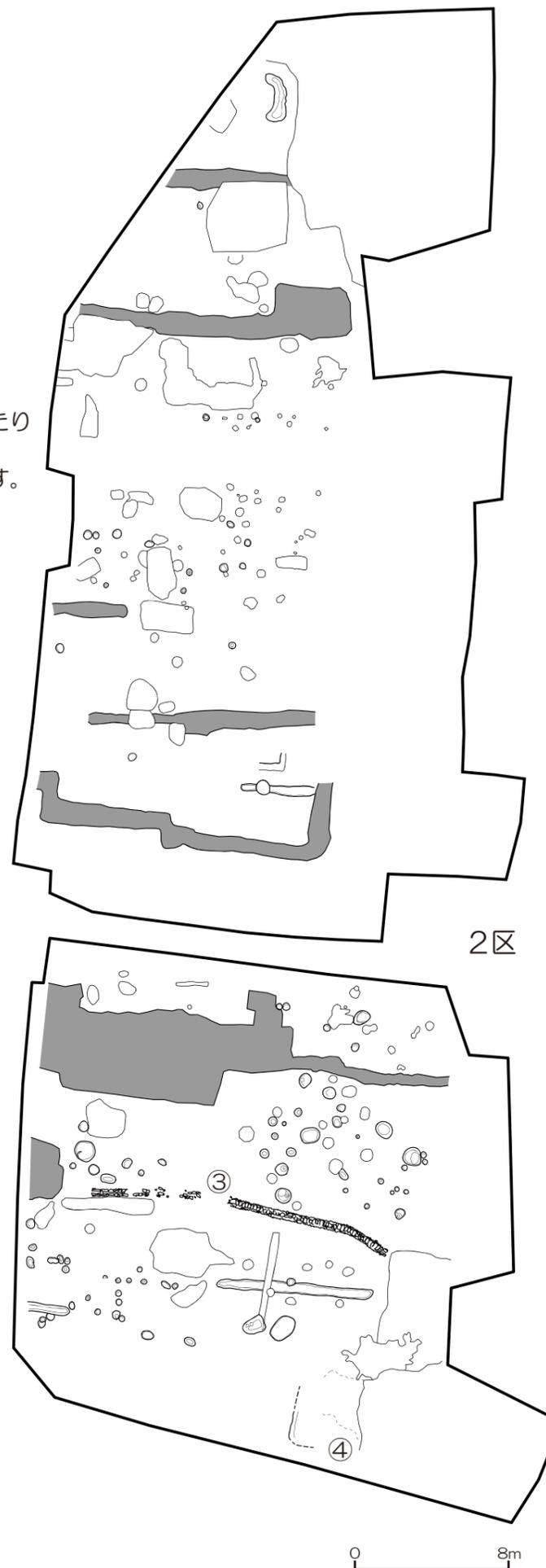
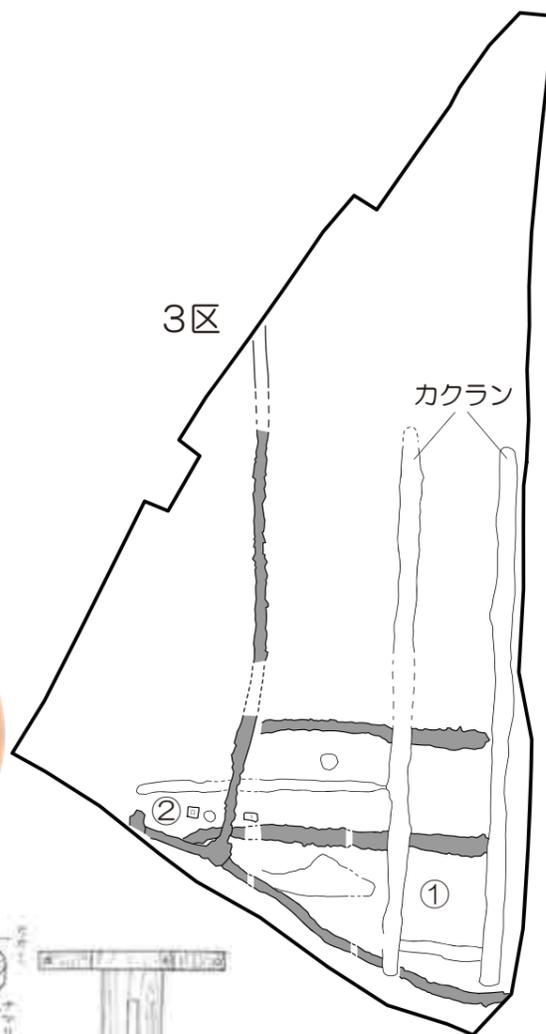
② 造成土に覆われた工房の痕跡

窯に付属する工房があったとみられる場所から、四角い穴が開けられた石2個が出土しました。他地域の事例から、轆轤を固定するための石（右図）であると考えられます。

「轆轤台石」または「轆轤心石」と呼ばれるもので、全国的にも設置された当時の状態で確認された例は少なく、貴重な資料です。



『瀬戸市史 陶磁史篇五』より抜粋



長谷鶴前遺跡群全体図



④ 竖穴建物跡

人が歩いて固くしまったと思われる範囲（点線）をわずかですが確認しました。「土間」であった可能性があります。土器などがほとんど出土していないため確かな時期はわかりません。